

<別紙>

エシカルデザインを通じた共創により生まれた「共創空間」事例

ヤマハ発動機株式会社／YAMAHA MOTOR Regenerative Lab（通称：リジェラボ）

ヤマハ発動機がこれまで様々な事業で向き合ってきた社会課題への取り組みの発信を行う共創スペース「リジェラボ」。船場はヤマハ発動機と共創し、ヤマハ発動機の製品の製造・輸送過程で発生した廃棄物や廃材をアップサイクルした什器や家具、アートワークを制作し、共創スペースのテーマである「リジェネラティブ（再生）」を具現化しました。



▲ヤマハ発動機由来の廃棄物である FRP（繊維強化プラスチック）をアップサイクル

さらにコンテンポラリースタジオ we+と共創し、リジェネラティブへの導入の役割を果たすアートワークを制作。これまでゴミとして見過ごしてきたものを改めてじっくりと観察することによって、自らの中にある廃棄物に対する固定観念概念に気づき、新たな視座を得ることを目指しました。



> 「YAMAHA MOTOR Regenerative Lab」船場のプレスリリースは[こちら](https://www.semba1008.co.jp/ja/release/news/press-20241107)
(<https://www.semba1008.co.jp/ja/release/news/press-20241107>)